

各テーマの取組状況、現状と課題

◇印は市民意識調査の結果

テーマ	これまでの主な取組状況(平成 20 年度～)	現状と課題
<p style="text-align: center;">2R (発生排出抑制・リユース)</p>	<p>【発生排出抑制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「レジ袋削減に向けた取組みに関する協定」の締結(レジ袋有料化) ・ 「ごみ減量キャンペーン」の実施(食品ロス削減・生ごみの水切りを呼びかけ) <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ CM放映、ポスター掲出 ・ Facebook ページの開設 ・ 生ごみ減量レシピ募集 ・ 食品ロス削減スローガン募集 ・ 啓発イベントの実施 ・ 生ごみを減らす調理方法を伝える料理教室の開催 ・ 食材の適切な管理方法を伝える冷蔵庫整理術講座の開催 ・ “札幌発”生ごみ水切り器を開発し、市民に配布 ・ 紙製生ごみ水切り袋の戸別配布 ・ 生ごみ減量普及啓発 DVD を市内小・中学校、高等学校に配布 </div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【リユース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リユースプラザを活用したリユース、リサイクル等の情報発信 ・ 古着の無料回収(地区リサイクルセンターやクリーニング店など) 	<p>【発生排出抑制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇買い物袋(マイバッグ)を持参し、レジ袋は使用しないことについて「いつも・だいたい・時々」している人は約9割 ◇生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯は8割強 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【リユース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リユースプラザ来場者数は、年間3.7万人(平成27年度) ・ 古着の回収量は1,210トン(平成27年度) ・ 家庭ごみ全体に占める衣類の排出量は微増傾向 ◇古着は「燃やせるごみ」に出している人が約8割 ◇リサイクルショップやフリーマーケットを利用している人は約4割弱。ほとんど利用していない人は、30歳代以上では5割を超え、50歳代以上では6割を超える。

テーマ	これまでの主な取組状況(平成 20 年度～)	現状と課題
<p style="text-align: center;">生ごみ・ 食品ロス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ごみ減量キャンペーン」の実施（食品ロス削減・生ごみの水切りを呼びかけ）※実施内容は 2 R の取組状況参照 ・ 生ごみ堆肥化セミナーの開催 ・ 生ごみ堆肥化講師派遣の実施 ・ 生ごみ堆肥化機材購入助成の実施 ・ 自家処理した生ごみ堆肥と野菜の交換による堆肥化の普及拡大 ・ 宴会や会食での食べ残しを減らす「2510（ニコッと）スマイル^{うたげ}宴」※の普及に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭から出る生ごみ量は平成 27 年度において 9.9 万トンとなり、目標値（平成 29 年度）を達成 ・ 家庭から出るごみの約 3 割が生ごみ（平成 27 年度組成結果） ・ 生ごみのうち約 2 割が未開封品と食べ残し（平成 27 年度組成結果） ◇生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる世帯は 8 割強 ・ 生ごみ堆肥化セミナーは 30 回開催し、948 人が参加（平成 27 年度）

※外食時における食品ロス削減に向け、宴会開始後 25 分間と終了前 10 分間は自席で料理を楽しむ取組

テーマ	これまでの主な取組状況(平成 20 年度～)	現状と課題
年代別の取組	<p>【高齢者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「さわやか収集」の実施 ・ 「わかりやすいごみ分けガイド」の作成 	<p>【高齢者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関先からの収集は 3,221 件、大型ごみの運び出しは 420 件（平成 27 年度実績）、基準緩和により実施件数が増加 ◇ごみの排出が困難な方への支援策として、5 割以上の人が「ごみ出しボランティアなどを実施している団体との連携」、「さわやか収集の要件緩和」を有効な対策として考えている ・ 高齢者の食生活において、食品ロス率が高い傾向 ・ 生前整理・遺品整理への対応
	<p>【若年層・単身者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学や専門学校の新生向けのごみ出しルールに関するチラシを配布 ・ 無料アプリ「札幌市ごみ分別アプリ」を配信 ・ 各区役所における転入者向け普及啓発を実施（毎年 3 月末から 4 月） 	<p>【若年層・単身者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇適正排出（容器プラ、雑がみをそれぞれの収集日に排出）については、若年層・単身者の協力率が低い ・ ごみ分別アプリダウンロード件数：44,775 件（平成 28 年 5 月末集計） ・ ごみ分別アプリの利用者のうち、30 歳代以下は約 56%、20 歳代以下は約 29%（平成 28 年 5 月末集計）

テーマ	これまでの主な取組状況(平成 20 年度～)	現状と課題
事業者との連携	<p>【家庭ごみを減らす取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「レジ袋削減に向けた取組に関する協定」の締結(レジ袋有料化) ・ ダンボールの回収ボックスのスーパーへの設置 ・ 商業施設での小型家電の無料回収 ・ クリーニング店での古着の無料回収 	<p>【家庭ごみを減らす取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物袋(マイバック)を持参し、レジ袋は使用しないことについて「いつも・だいたい・時々」している人は約9割 ・ 古紙回収協力店舗数: 119 店舗 ・ 商業施設での小型家電の回収拠点数: 12 店舗 ・ クリーニング店での回収拠点数: 87 店舗
	<p>【事業ごみを減らす取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業ごみ指導員の立入指導等の実施 ・ 「処理実績報告・減量計画書」の提出義務がある大規模事業者の対象建築物の範囲を拡大 ・ 「学校給食フードリサイクル事業」の実施を支援 ・ 「すすきのスリムタウン協定」、「狸小路スリムタウン協定」締結 ・ 「商店街古紙回収事業」の実施 ・ 事業系資源ごみ回収ボックス設置費補助の実施 ・ 小規模事業者に対するごみ減量・分別・リサイクルの促進に向けた指導及び普及啓発 ・ 事業ごみ不適正排出予防キャンペーンの実施 ・ 古紙回収事業に取り組む商店街による意見交換会の実施 ・ 見える化システムによる事業ごみ減量・リサイクルの促進 	<p>【事業ごみを減らす取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業ごみ量は横ばい(平成 27 年度は平成 26 年度に比べ若干増加) ・ 業種によってごみ組成は異なるが、生ごみ、紙類が多く排出 ・ 学校給食フードリサイクル参加校: 299 校 ・ すすきの生ごみ分別リサイクル参加ビル数: 10 棟(66 テナント) ・ 「商店街古紙回収事業」の参加商店街: 10 区 22 地区 25 商店街

テーマ	これまでの主な取組状況(平成 20 年度～)	現状と課題
普及啓発	<p>【市民を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リユースプラザでの情報発信（リユース品の展示提供、ごみ減量講座、イベント等） ・ 障がい者や高齢者に対する分別支援として、「わかりやすいごみ分けガイド」を作成・配布 ・ 「ごみ分けガイド」の全戸配布（平成 26 年度） ・ 無料アプリ「札幌市ごみ分別アプリ」を配信 ・ 出前講座「さっぽろクリーンミーティング」を実施 ・ 小型家電の無料回収（商業施設、区役所等）の普及啓発 ・ 市内 4 か所にある地区リサイクルセンターの普及啓発 ・ 雑がみ・容器包装プラスチックの適正排出に向けた普及啓発〈ごみ減量キャンペーン〉 ・ 資源物分別用ごみ袋を配布〈ごみ減量キャンペーン〉 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【小学生等を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的環境副教材を、市立小学校の新 1、3、5 年生に配布 ・ 小学生向け出前講座を実施 ・ 市内小学校、中学校、高等学校に生ごみ減量普及啓発 DVD を配布〈ごみ減量キャンペーン〉 ・ 食品ロス削減スローガンの募集〈ごみ減量キャンペーン〉 ・ ごみ減量紙しばいの募集 	<p>【ごみ量】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ量管理目標は概ね順調に推移 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【ごみへの関心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ごみに関することについての関心は、約 9 割が「関心がある」と回答 ◇ただし、年齢別では 10 歳代・20 歳代の関心が低い傾向 ◇ごみに関する情報の入手方法は、7 割以上が「収集日カレンダー」と「ごみ分けガイド」 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【ごみの分別】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「びん・缶・ペットボトル」の分別協力率は 94~97%と高い水準 ・ 一方、「雑がみ」や「容器包装プラスチック」は 60%前後となっており、燃やせるごみや燃やせないごみとして排出されているものも多い

テーマ	これまでの主な取組状況(平成 20 年度～)	現状と課題
	<p>【大学生等を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学や専門学校の新生生向けのごみ出しルールに関するチラシを配布 <p>-----</p> <p>【転入者を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各区役所における転入者向け普及啓発を実施(毎年3月末から4月) ・ 「ごみ分けガイド」と「家庭ごみ収集日カレンダー」の配布(市外転入者の転入手続き時) <p>-----</p> <p>【事業者を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「オフィス・店舗向け事業ごみ分別・処理ガイドブック」を全ての大規模事業所に配布 ・ 「商店街古紙回収事業」の取組等を伝えるニュースレター「ショリクマ通信」の発行 	